② 分科会分担分【当初予算議案】

予算決算委員会 総務分科会座長報告

令和7年3月19日予算決算委員会

○議案第49号のうち、総務分科会の分担分と、議案第55号及び議案第57号の審査の経過

●議案第49号

「令和7年度飯田市一般会計予算(案)」のうち当分科会の分担分

2款 総務費 1項 総務管理費 2目 広報広聴費の

広報広聴事業(事務事業No.6)に関し、

【質疑】チャットボット運用保守業務負担金とSNSアプリ(LINE)利用料が増加している要因は。

【答弁】スタンプラリーや子育てに関する申請など、機能追加による増額である。

【質疑】今後も様々な機能を利用しようとするれば、予算が膨らんでいくとの認識でよいか。

【答弁】そのとおりである。

○4目 車両管理費の

車両管理事務(事務事業No.8)に関し、

【質疑】マイクロバスは都度リースとするのか、年間のリースか。

【答弁】5年間のリース契約を想定している。

【質疑】取得よりもリースの方が金額的に抑えられるとの判断か。

【答弁】5年間で比較すると、リースの方が取得より若干高くなるが、マイクロバスは高額であり、将来的なことを考えるとリースにした方が適当と判断した。

○5目 自治振興費の

地域自治活動支援事業(事務事業No.9)に関し、

【質疑】ゆるやかなつながりの検討とあるが、顔の見える関係性とは、まずは隣近所からという理解でよいか。地域の集まりの中で顔の見える関係性という議論もあったと思うが、考えは。

【答弁】隣近所での関わりに加えて、公民館行事や防災訓練といった地域の活動に参加していただくような取り組みも合わせて進めていく。

○同じく、自治振興費の

自治活動の拠点整備事業(事務事業No.10)に関し、

【質疑】集会施設整備事業に関して、太陽光発電設備設置工事を特例として加えるとあるが、特例とは。

【答弁】通常の集会施設の整備に係る補助金に加え、既存の集会施設に太陽光発電設備を設置する場合は、その分を上乗せして補助するものである。

○同じく、自治振興費の

20地区田舎へ還ろう戦略支援事業(事務事業No.11)に関し、

【質疑】以前から遠山郷や竜東方面から竜西方面への住民の移動がみられるが、そういった課題も認識しつつ定住促進施策に取り組もうとしているか。

【答弁】市内での住民の移動といったことも加味しながら考えていきたい。

【質疑】活動指標の計画に、U・Iターンの相談件数を280件とあるが、これくらいの相談件数があれば定住人口や関係人口の増加につながるかの理解でよいか。

【答弁】計画については、これまでの傾向や取組を踏まえて設定した。相談を受ける中で各地区の定住促進施策を進めてまいる。

○同じく、自治振興費の

地域安全活動事業(事務事業No.12)に関し、

【質疑】防犯灯の光熱費として2,000万円が計上されている。令和5年度の決算と比べ、400万円ほど増加しているが、LED防犯灯の設置が進む中でこれほど増額となるか。

【答弁】令和6年度の実績を勘案して計上している。

○続いて、9目 企画費の

大学とのネットワーク構築事業(事務事業No.19)に関し、

【質疑】高大連携事業は非常に重要と思うが、減額となった理由は。

【答弁】オンライン会議の利用が多くなったことを踏まえ、旅費等の経費を精査した結果、減額となった。

【質疑】身近に大学を感じてもらおう取組として、大学研究者などが所蔵する書籍を配置することのだが、具体的には。

【答弁】大学などの研究者が所蔵する専門書を配置し、大学連携のシンボリックな存在として地域の方に感じてもらいたい。令和7年度は2箇所を配置を予定している。大学の研究者の皆さんの意見を聞きながら配置していくことになるが、地区の公民館やムトスぷらぎを想定している。事業の狙いは地域との接続であるが、事業を実施する中で、どのような可能性が考えられるか追及していきたい。

○同じく、企画費の

ふるさと飯田応援隊募集事業(事務事業No.23)に関し、

【質疑】ふるさと納税申込件数が3万件の計画となっている。昨年度の計画は4万件であり、先ほどの令和6年度飯田市一般会計補正予算(第7号)案は増額の補正であった。申込件数が伸びている中で計画の件数を減少させた理由は。

【答弁】最近の傾向として、申込件数は減りつつある。その一方で、寄附額は非常に伸びている状況にある。令和6年度の寄附実績は一時的でもあり、一時的な寄附実績については、来年度は今年度の5割程度と見込み、これに令和3年度からの伸び率を掛け合わせて計画とした。

○同じく、企画費の

大学設置活動推進事業(事務事業No.24)に関し、

【質疑】令和7年度の取組に、信州大学との連携として、研究推進や社会実装に必要な施設・設備などの環境の整備とある。予算規模は100万円だが、将来的には水素ステーションなどが考えられ、このような視点を今から持つとの理解でよいか。

【答弁】施設整備は信州大学が進めるため、市からの支出は今のところ想定していない。市としては、庁内を横断したプロジェクト体制により、様々な分野での水素の利活用の可能性に取り組んでいくこととしている。水素ステーションの設置等については、民間の動きや大学側の意向を勘案しながら、必要な時に予算計上していく可能性がある。

○続いて、13目 情報管理費の

情報システム事業(事務事業No.33)に関し、

【質疑】公式webサイトのリニューアルとは、どのような内容か。

【答弁】公式webサイトは令和5年度に全面的なリニューアルを行った。令和6年度からコンテンツごとのリニューアルを行っており、7年度は文化やスポーツ関係のコンテンツのリニューアルを行う予定である。

○4款 衛生費 1項 保健衛生費 5目 環境保全費の 環境保全一般経費(事務事業No.133)に関し、

【質疑】昨年度は「うごくる。」や「うごくるB。」などの活動が大きく取り上げられていたが、これまでの取り組みが令和7年度にどのよう
に反映されているか。

【答弁】7年度はCO2排出量の見える化に取り組んでいくが、これは「うごくる。」や「うごくるB。」の活動の延長線上にあると考えている。

○同じく、環境保全費の

省エネルギー推進事業(事務事業No.138)に関し、

【質疑】EVシフトを加速するため、環境性能だけでないEVの魅力を発信するとあるが、どういったところが魅力であると発信していくか。

【答弁】電池としての機能を持つ車と言えるので、例えば、災害時に電気を取り出せるとか、災害時に強い地域をつくるといったことを発信していきたい。

○4款 2項 清掃費 1目 清掃総務費の

3R推進事業(事務事業No.140)に関し、

【質疑】生ごみ処理機器の導入補助の成果や効果は。

【答弁】令和6年度は2月末時点で344件の申請があった。5年度は年間で211件であり、かなり増加している。燃やすごみの削減状況は、稲葉クリーンセンターの暫定値となるが、家庭からの収集ごみに限っての数値では、4月から12月までの飯田市分は前年度比98.67パーセントであり効果があったと言える。

【質疑】燃やすごみの中で、生ごみが減少傾向にあるとの理解でよい
か。

【答弁】燃やすごみの組成調査では、生ごみは減少しているとの結果であった。

【質疑】令和7年度は「生ごみ出しません袋」の配布は行わないか。

【答弁】令和6年度に意識啓発として取り組んだものであり、7年度の実施の予定はない。

●議案第55号

「令和7年度飯田市墓地事業特別会計予算(案)」

及び

議案第57号

「令和7年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算(案)」

特に申し上げることなし。

②【当初予算議案】

予算決算委員会 社会文教分科会 座長報告

令和7年3月19日予算決算委員会後期全体会

- 議案審査前に、所管事務調査に係る政策提言への対応状況についての質疑の状況

【質疑】 今回の提言は、非常に先がとがったものになっていたが、それに対応する姿勢が見えた。逆に鳥の目で見たとときに、こどもの居場所づくりが非常に プライオリティ 優先度が高いという気がするが、担当部としてどのように考えているか。

【答弁】 こどもの居場所に対するニーズの高さは承知しており、居場所をつくることは重要だと認識している。居場所を提供していただける法人が増えるようなことを考えていきたい。具体的な話ではないが、人材不足に関しては、こどもが地域や地域の皆さんと関わりを持つことで、そのこどもたちが次の世代の面倒を見るという動きが出てきている。社会教育の立場としては、そのようなこどもたちが育っていく過程を大事にしながら、寺子屋など公民館で行っている事業を通じて地域の担い手を育てていきたい。

児童クラブについては、上郷地区の児童クラブが施設の統合により定員増を計画している。また、民間の児童クラブがいくつか開所する予定であり、民間の皆さんとも協力しながら、居場所づくりをしていきたい。こどもの居場所に対するプライオリティをできるだけ高く持ち、地域も一緒になって進めていきたいと考えている。

- 議案第 49 号のうち社会文教分科会の分担分と、議案第 50 号から議案第 52 号まで、議案第 56 号及び議案第 58 号の審査の審査経過

○議案第 49 号

「令和 7 年度飯田市一般会計予算(案)」のうち当分科会の分担分

○3 款 民生費、1 項 社会福祉費、1 目 社会福祉総務費

「ともに未来を支えあうパートナーづくり事業」(事務事業No.63)

【質疑】婚活イベントは、この課題解決にはあまり有効な手段、解決するための手段ではないということは共通認識と思うが、結婚相談員への支援は今まで通りの支援か。今後支援の在り方の見直しの方向性は。

【回答】様々な婚活に関するイベントを、地区単位で開催していることを承知している。それに対しどのように福祉課としてアプローチしていくかという手法を持っていない。福祉的視点からは、一人より二人で支えあって人生を送るといった形が望ましい姿なのかと考える。今後、この事業の所管はどこが適しているか議論があるところだと考える。

○4 目 老人福祉費

南信濃福祉の里・上村デイサービスセンター運営事業(事務事業No.75)

【質疑】上村デイサービスセンターの補足説明資料には、施設改修で3ヶ月休止するとある。指定管理料を9ヶ月、休業補償を3ヶ月分支払うということによいか。

【回答】施設が3ヶ月休止するため、指定管理料は3ヶ月分を除いているが、1年間通して必要な経費は含んでいる。3ヶ月分の休業補償は、この期間まったく事業を行わなかったという前提であり、発生する費用を積算し、3か月分で800万円余としたものである。

【質疑】現在利用している方は、3ヶ月間の休業中はサービスの提供を受けられなくなるのか。

【回答】例えば、お風呂に入りたいという要望に対して、上村デイ横の施設に仮設の浴室を作るか、あるいは前年度末で廃止した南信濃デイサ

ービスセンターを仮に使用するかなど、現在、利用者の方に最低限必要なサービスを提供する必要があるか、指定管理者と調整をしている。その場合、サービスを提供する部分は休業補償から差し引くことになる。

○10 款 教育費、1 項 教育総務費

スクールバス運行事業（事務事業No.229）

【質疑】4月から上村・南信濃地区の学校に通学する児童生徒は、登下校に公共交通を利用することとなり、下校時に合わせダイヤ変更を考えていると説明があった。2月に上村小学校の保護者から、その話はまだ決まっていないと聞いたが、この通学方法について、地元と合意はできたという認識でよいか。

【回答】保護者へはそれぞれ丁寧に説明をおこない、2月中旬から具体的にバスの乗車体験を通して課題抽出を進めている。

また、昨年12月の地域公共交通改善市民会議では、地元から、現在の運行状況は、乗降客が1人いるかいない状況なので、学校の通学時刻に合わせてダイヤ改正を行うように決定され、その方向で運行事業者と進めている。

○2 項 小学校費及び 3 項 中学校費

就学援助等事業（事務事業No.237）

【質疑】議会からの提言により、受領委任払いで、旅行貯金や学年費等を児童手当から先に負担し、その後、就学援助費から充当するというような説明だったが、これは基本的にその児童手当から先に支払ったものが支給をされるという認識でよろしいか。

【回答】家庭からの申し出により、児童手当から学校集金等を天引きのような形で学校へ支払うことは、就学援助を受けている家庭も、受けていない家庭もできる。

就学援助を受けている家庭で、児童手当から引き去ることを申し出て

いる場合は、学校で費用が確定したら、就学援助の制度に基づいて、確定した費用が就学援助として支給される。

○3項 中学校費、2目 中学校教育振興費

小中一貫教育推進事業（事務事業No.244）

【質疑】飯田市のこれからの学校のあり方審議会に女性委員がいないが、来年度以降、考えはあるか。

【回答】飯田市の学校のあり方審議会の委員は条例で定められた15人となっている。委員数の変更は条例改正が必要になるため、第2回定例会に議案を提出するかどうかも含めて現在事務局内で検討している。あり方審議会がこの3月24日にあるので、2年間の総括も含め、来年度の委員構成等についても意見等ききながら進めていく。

○5項 社会教育費、1目 社会教育総務費

社会教育運営事業（事務事業No.249）

【質疑】飯田の学びの総合情報サイト『結いなび IIDA』を閉鎖すると説明があったが、どのような理由で閉鎖するのか。

【回答】このサイトが当初の予定ほど利用されなくなってきたことが一番の原因である。個人がSNS等を使って情報発信することで、人と人の繋がりができる時代になり、行政が情報サイトを作らなくても市民の皆さん同士の繋がりが構築できるようになってきたと判断した。

○4目 公民館費 多様な学習交流支援事業（事務事業No.259）

【質疑】戦略計画が非常に幅広い。そのことは公民館が果たす役割が大きいという意味が含まれていると思う。市長のあいさつにも、公民館へ原点回帰していこう という思いが含まれている。そのことを踏まえ、来年度地域に着目した活動にこの事業費がどういうインセンティブを与えるのか。要するに、何が起爆剤となって、

地区がその気になるかその事業費は何か。

【回答】公民館の果たす本質的な役割は、基本的には変わらないと思っている。ただ、その仕掛け方を来年以降は意図を持ってやっていく。今、大事なものが3つあると考えている。

1つ目が公民館活動の魅力を多くの方に知っていただくための公民館活動の情報発信。

2つ目が、公民館活動の原点である、住民が対話する場の設定である。地域の中学生や高校生が、自分たちのやりたいことを地域の方に伝え、そのことを一緒に取り組むという活動が生まれてきている。このような対話を持つことで住民の達成感にもつながる。

3つ目が、公民館における学習活動で、個人の思いや地域の願いを共通のテーマとして学びを拡げ、取り組んでいけるように仕掛けていきたい。一つ一つ丁寧に取り組むことで、担い手意識の変革をもたらし、担い手を育めるようにしたい。事業費は各地区公民館のこのような学級活動、学習活動の事業費である。

【質疑】今の答弁は、理想的なこれからの公民館活動の構えと思うが、公民館役員へのインセンティブをどのように与えるかが大事だと思う。具体的な事業はこれから各地区で考えると思うが、役員さんたちにも積極的な仕掛けをお願いしたいがどうか。

【回答】現場の館長や公民館主事と意見交換する中で、委員が消極的だったり、負担を感じているという声もある。公民館活動は、活動に関わっていくことによって、様々な学びや住民とのつながりといった経験が積み重なっていく。館長や主事が住民や委員に寄り添いながら主体的な活動になるように展開していきたいと考えている。

○飯田コミュニティスクール推進事業（事務事業No.261）

【質疑】中学生、高校生のボランティア活動の説明を聞く中で、公民館主事が大きな役割を果たすと考えるがどうか。

【回答】中学生のボランティア活動を推進していくうえでの要は公民館主事と考える。学校や生徒との信頼関係を主事が育みながら、活動を支援していければと考える。

【質疑】地域からは高校生との関わりはすごくありがたいという意見がある。公民館大会へ参加し中学生高校生とのつながりの分科会に参加したが、参加していた高校生から、ボランティアは高校から呼びかけをしてくれた方が動きやすいという声があった。この点を公民館はどう考えるか。

【回答】公民館と高校がつながることは大事だと考える。地域人教育に公民館は10数年関わってきて、地域と高校をつなげることで教育活動においても効果的な授業ができたという経験もある。しっかりした関係性を作り、高校にも公民館の存在・役割を認識してもらい、協力してもらえそうな関係づくりを丁寧に作っていく必要があると考える。

○ 6目 美術博物館費の

美術博物館資料調査研究・資料保管事業（事務事業No.268）

【質疑】以前から言われている収蔵庫不足解消に向けた取組みとして、『検討を進めます』とあるが、予算執行を伴うものか。

【回答】予算執行を伴うものではない。収蔵庫については図書館・美術博物館・歴史研究所等、教育委員会全体に関わることであり、生涯学習スポーツ課を中心に検討を始めている。検討内容について報告できる時期が来たら報告したい。

○10款、6項 保健体育費、1目 保健体育総務費

文化・スポーツ活動の体制整備事業（事務事業No.292）

【質疑】活動指標の公認地域クラブ数が20団体、経費の内容の公認地域クラブ活動支援補助金が200万円計上されており、補助は

1 団体 10 万円とされている。現在活動しているクラブがすでに 20 団体あるのか、またそれらの団体は補助を受けられるのか。

【回答】現時点で補助対象となる団体は、令和 4 年以降に設立されたクラブを予定している。すでに今年度中に設立されたクラブもいくつかある。予算を超える補助申請が出てくれば、補正予算も検討したい。

○議案第 52 号

「令和 7 年度飯田市介護保険特別会計予算（案）」の審査経過

【質疑】取組内容に、『上村南信濃地区では、地区内全域から参加できるように送迎付きの介護予防教室を実施します』とあり、事務事業を進める上での課題認識に『足の確保が課題とされます』と記載されている。足の確保の問題はどう対応していくのか。

【回答】遠山圏域は非常に広く、地形的にも厳しいところに 1 人で、あるいは 2 人で居住している方もいる。通常だと通ってきていただくことになるが、それがなかなかできない方もいるので、そういった課題を踏まえて、送迎付きを開始した。

【質疑】送迎をしてくれる人の確保も大変だと考えるが、対応状況はどうか。

【回答】現在は地元の方を非常勤雇用し、安全確保のため運転講習も受けてもらっている。

○議案第 58 号

「令和 7 年度飯田市病院事業会計予算（案）」の審査経過

○ 病院事業会計については、令和 5 年度飯田市病院事業会計決算認定の審査の際に、令和 4 年度、令和 5 年度と 2 年連続の赤字決算報告を受けたことから、令和 7 年第 1 回定例会で経営改善に向けた取り組みを示すよう申し入れをおこなった。当初予算案の説明の前に、経営健全化に向けた取り組